

1. 評価結果概要表

作成日 2008年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1271500975		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム もばら和光苑		
所在地	千葉県茂原市鷲巣456-1 (電話) 0475-27-1113		
評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	2008年11月21日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤6人, 非常勤5人, 常勤換算8.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2	要介護2	7		
要介護3	6	要介護4	3		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 85歳	最低	72歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖光会病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

公道から少し入った広い敷地内に淡いクリーム色の木造平屋で、落ち着いた外観、高い天井のリビング・自然採光への配慮・ウッドデッキの設置などゆとりを感じさせる建物である。運営者の「介護にベストはない」との強い信念に基き、「信用・信頼・安心」を基本理念としている。その実現に向け、運営者・職員が一体となって更に高いレベルのサービス提供を目指し、意欲的に取り組んでいる。地域との交流も活発であり、充実した研修システムに裏打ちされた職員一人一人がゆとりを持って利用者として接している。ハード・ソフト両面から「終の棲家」に相応しい安らぎを感じさせるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営推進会議の活用 同業者との交流 災害対策については、地域住民・市職員・家族など20名近い参加者を得て3回開催 認知症高齢者グループホーム研修などに職員を参加させ交流 過去の水害など災害状況を地域住民と検討する等着実に改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の意義や内容などをケース会議や職場会議で話し合っている。『施設評価チェック表』でその実施状況と達成度を年1回自己評価している。今回もそれを活かし各自が自己評価に参加した。外部評価の評価内容は順次取入れ改善に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 近隣自治会長・市職員・民生委員・小学校校長・家族など約20名の参加を得て、地域資源の活用・地域への貢献、災害対策等と継続的な議題を設定し、運営推進会議を定期的に開催している。地域行事の開催情報・ボランティアの紹介や地域防災協力などについて活発な話し合いがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者、家族、職員が何でも気軽に言い合えるフラットな関係作りをしている。連絡時や来苑時に家族の言葉等から要望等に気付くようにし、即答できることはその場で解決している。些細なことでも対応するようにしている。ユニット毎に投書ポストを設置している。『入居者会議』も開き家族の意見を汲み取り反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会や小中学校などから行事への誘いが多くある。利用者と職員は積極的に参加している。敷地内を散歩コースに開放しており近隣の方の行き来も多い。併設のデイサービスと協力し『家族介護教室』を実施するなど地域福祉への貢献と理解向上に努めている。無断外出者の連絡など近隣からの協力も得られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者の『介護にベストはない』との強い信念に基づき、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けるサービスを継続する為に『信用・信頼・安心』をホームの理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が基本理念とその内容をよく理解している。毎月の職場会議において理念を共有する話し合いをするだけに止まらず、日々のケアでの気付きなどを申送り時に話し合うなど『信用・信頼・安心』のケア実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・小中学校から行事などへの誘いが多くあり、積極的に参加している。敷地内を散歩コースに開放しており近隣の方の行き来も多い。又、併設のデイサービスと協力し『家族介護教室』を実施するなど地域福祉への貢献と理解向上にも努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義や内容はケース会議や職場会議で話し合っている。『施設評価チェック表』で各自年1回その実施状況と達成度を自己評価している。今回もそれを活かし自己評価に参加した。外部評価での評価内容は順次取り入れ改善に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長・市職員・民生委員・保育園長・小中学校長・家族など約20名の参加を得て運営推進会議を定期的開催している。地域行事の開催情報やボランティアの紹介を受けたり、地域防災協力など、議題を決めて活発な話し合いがなされている。</p>		<p>運営推進会議を定期的開催し活発な話し合いをし、サービスの向上に結び付けていることが伺える。運営推進会議を更なるサービス向上に活かす為にも、自己評価での取り組みや外部評価結果を議題とし、モニター役として活用することを期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>併設の在宅介護支援・デイサービス事業も含め、市との交流は密であり市職員の来苑も多く、職員交代時にも引継ぎがある。相互の信頼関係が構築されており、共同してサービスの質の向上に良く取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>体調変化などは時間に関係なく即座に家族に連絡し信頼と安心に努めている。日々の暮らしや誕生会などの様子は『もばら苑便り』に写真満載で伝えている。個人別のアルバムを作り来所時等に見せている。銀行通帳管理をし毎月家族に報告し確認済み。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者・家族・職員が何でも気軽に言い合えるフラットな関係作りをしている。来苑時に要望等に気付くようにし、即答できることはその場で解決している。ユニット毎に投書用ポストを設置したり『入居者会議』を開き家族の意見を取入れている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者の利用者への『信用・信頼・安心』実現への努力の結果、この1年間離職者は0である。退職等の理由で職員が変わる時は、新人担当教育係り職員を決めて利用者を共に担当し、利用者が安心して少しでも早く馴染めるよう配慮がなされている。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者の『介護は人財である』との信念の下、年間研修計画を作成し職員の慣熟度に応じた内部研修の実施・外部研修受講の奨励・実務経験3年目には『介護福祉士資格』取得への支援など、職員個々のスキルアップを目指した職員育成への取組みは非常に充実している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者は、(社)千葉県高齢者福祉施設協会の「認知症高齢者グループホーム分科会長」を勤め積極的にネットワーク作りをしている。管理者も認知症高齢者グループホーム管理者研修に参加し同業者との交流を深めている。グループホーム同士の職員一日体験を提案するなど職員の交流に積極的に取組もうとしている。</p>		<p>今、提案しているグループホーム同士の職員一日体験を受け入れてくれるホームが見付り、職員同士の交流が実現することを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に職員が朝・昼・夕ご飯を運ぶことから初め、少しずつ職員と馴染んでから、1・2時間来所・家族と同泊入所等段階的な「お試し入所」をする。本人にとって一番大切なことは何かを何度でも家族とも話し合い、じっくり時間をかけてホームに馴染めるよう工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が何が出来るかを先ず把握する。洗濯の出来る方には一緒に手伝っていただく等職員と利用者がフラットな関係の介護を心がけている。夜勤時に「遅くまで大変ね。ご苦労様、早く寝なさいよ!」などと利用者から気遣いや励ましを頂く場面もよくある。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所以前の生活歴、既往歴の生活情報を把握し、入居者の現状や思いを個人別にカードインデックスに集約して、すべての情報が確認出来るように工夫されている。入居者一人ひとりに職員が担当し、希望、意向を把握し、職員がケース会議で話し合い、利用者本位の個別的ケアに努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者がその人らしい生活を継続出来るために個人別状況票に身体機能、精神状況、問題行動、既往歴、主治医、家族状況等を色分けし、分かりやすく書き込まれ、どの職員が見ても分かりやすく、課題の抽出にすぐ対応出来るようにして、介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>スピード感を大切にし、入居者の変化に対応し、職員全員参加のミーティングの場を活かし、ちょっとした変化もカードインデックスに書き込みスピーディに対応している。ほとんどの家族と一緒に話し合いながら現状に即した介護計画の見直しをしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>当施設には在宅支援センター、デイサービスを併設している。市役所の用事など在宅支援センターの職員と出かけたり、デイサービスへの参加など多様な機能を活かしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者が入居前からの馴染みのかかりつけ医のところへ職員と一緒に受診し、その受診結果を職員間で共有する仕組みがある。慣れ親しんだかかりつけ医に受診するように心がけている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者の終末期に向けたマニュアルが作成されており、かかりつけ医を交えて、家族と話し合いをし、終末期に向けた家族の安心感を得ている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員に対し、入居者に向けた「禁句集」を作成し、入居者に対し、言葉づかいを気を付けている。個人的な話の場合など、大勢の人の前で話すのではなく、居室で話すようにプライバシーに配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者本人が主体となって生活出来るように支援するようにしている。本人のペースに合わせるように心がけ、入浴、食事等拒否の場合なども時間をにおいて、本人の希望を聞くようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月15日は行事食を一緒に作るなどして、食への楽しみの機会を設けている。天気の良い日などは当施設のウッドデッキで食べるなど楽しい食事を心がけている。後片付けは入居者と職員が共同で行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりが入浴して、他の入居者に恥ずかしい姿を見せないように羞恥心等に配慮している。通常は昼間に入浴される方が多いが、一人ひとりの要望に合わせて、夜間の入浴にも対応している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙、生け花、茶道など個人が楽しめるようになっている。日常生活においても洗濯、布団干し、食器洗い、草取り、掃除など主婦であった生活歴を活かし個々の役割や楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当施設は行事外出が多いことが評価出来る、先日も入居者の要望で、娯楽施設に外出してきた。近くの公園に弁当を持って行き、食べてくるなどの支援も積極的に行っている。入居者が車に乗りたいという要望があれば、車で近くを一周してくるなど外出支援には積極的態で接している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設は、施錠しない運営を基本方針とし実践している。入居者が無断外出しても、本人に気づかれないようにセンサーが鳴り、確認している。無断外出マニュアルには、無線機器を使った捜索方法、近隣住民や警察との連携が書かれている。近隣の協力もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災避難訓練を積極的に実施している。地元消防団にも高齢者施設の特質を伝え協力依頼もしている。運営推進会議で地域の災害対策を議題として、近隣の協力を得られるよう話し合いを始めている。		運営推進会議で話し合われている災害時の近隣との協力体制が具体的に構築されるとより良い災害対策となると思われる
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を「管理チェック表」に記載して、数量管理を徹底している。定期的に体重測定も実施している。相談の必要な時は、管理栄養士と連絡を取りながら、栄養バランスを考えている。		「食事栄養委員会」を開催しているとの事である。その場を活用し、定期的に管理栄養士から専門的なアドバイスを受けることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間への配慮も、施設設計段階から綿密に検討して建築されている。フロアの飾り付けは毎月入居者自ら行っている。採光やウッドデッキなど工夫が感じられる。各ユニットごとに広い空間を確保するなど居心地良く過ごせるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品、思い出深い写真などが居室にあり、なじみ深いものを活かしてその人らしく過ごされるような工夫が見られる。居室も入居者の希望に合わせ、洋風、和風と選べるようになっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。